

三重県競技力向上対策基本方針

(仮称)

中間案 (改定版)

平成24年12月

三重県

目次

- 1 三重県競技力向上対策基本方針の策定趣旨 . . . 1
- 2 本県競技スポーツの現状と課題 . . . 2
- 3 三重県競技力向上対策基本方針における
目標及び計画 . . . 18
- 4 新しい組織の整備と推進体制 . . . 19
- 5 競技力向上のための取組 . . . 20

1 三重県競技力向上対策基本方針の策定趣旨

「幸福とは行為の結果であり、誰かが与えてくれるものではない。」

待っているだけでは幸福はやってこない、自立し、行動することが幸福を実感するための第一歩である。

これは、本県が、平成 24 年 4 月に策定した「みえ県民カビジョン」の序文で、県民の皆さんに呼びかけた言葉です。

県はこの「みえ県民カビジョン」の中で、スポーツの推進を新たに政策として位置づけました。それは、スポーツがもつ力を県民の皆さんの一体感の醸成につなげ、人と人、地域と地域との絆づくりを進め、活力に満ちた三重を創ることを狙いとしたからです。

本県出身選手がオリンピック等で活躍したとき、私たちはそこに大きな感動と喜びだけでなく、それを分かち合う県民の一体感と郷土への思いをとともにすることができます。しかしながら、私たちのこうした幸せの実感は、選手の努力はもちろんのことですが、彼らを支える周囲の理解と協力、支援なしにはもたらされないものです。

県民の皆さん一人ひとりが自ら行動し、ともに支えあい、スポーツを「する」「みる」「支える」すべての人々が主体的にかかわる中で、本県選手の活躍があり、私たちはそこに、スポーツを通じた喜びと醍醐味、感動と勇気を得ることができるのです。

この競技力向上対策基本方針は、平成 30 年の全国高等学校総合体育大会や、平成 33 年の本県開催予定の第 76 回国民体育大会及びそれ以降においても、本県選手が国内外で活躍出来るよう、今後の競技力水準の向上に向けての行程を明らかにするものです。

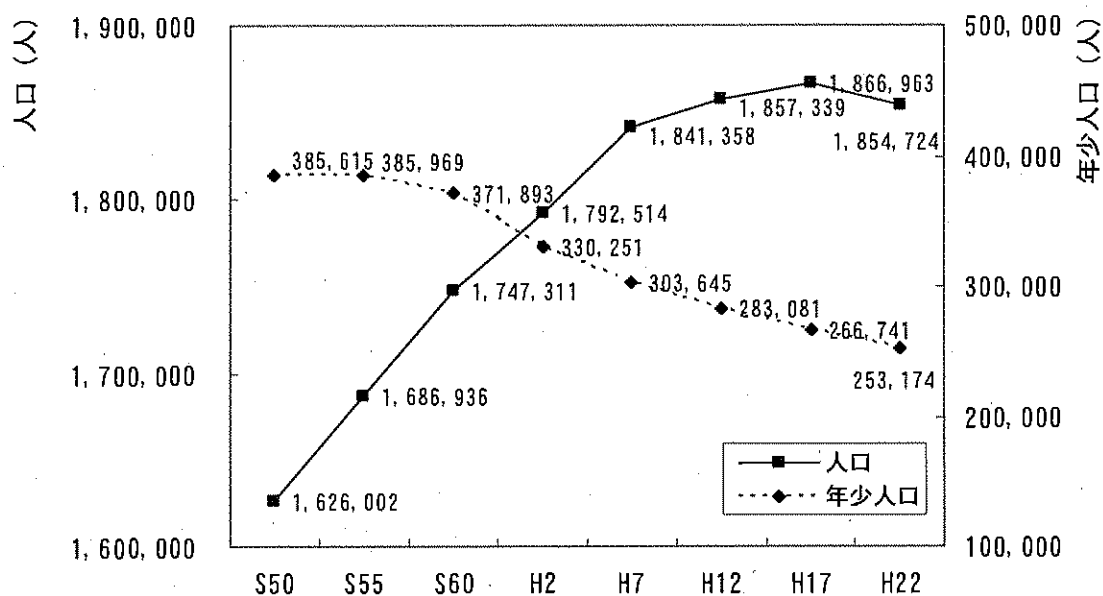
また、選手や関係者はもちろん、県民の皆さん一人ひとりが、どのようなかたちで三重の競技力向上に取り組み、関わっていくことが望ましいのか、その方向性を示すとともに、関わるすべての人々が目的を共有し、自らの役割を果たしつつ、ともに協力して、三重の競技力を向上させていくための指針として策定するものです。

この方針が、本県開催の第 76 回国民体育大会を契機とした、成績向上と国民体育大会終了後の安定的な競技力の維持につながることを期待して、策定の趣旨といたします。

2 本県競技スポーツの現状と課題

(1) ジュニア選手*及び少年選手*を取り巻く環境

①人口及び年少人口について



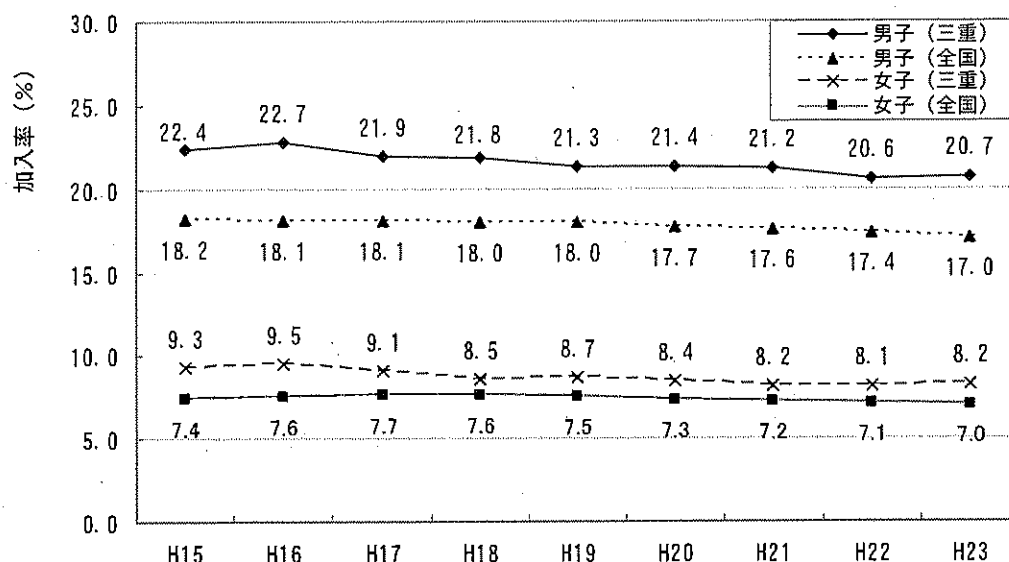
[三重の統計 みえ DataBox]

本県における人口は、昭和50年の三重国体開催時には1,626,002人であったのに対し、平成22年には1,854,724人と、およそ230,000人(14.1%)増加しました。それに対し、年少人口(15歳未満の人口)は、同じく昭和50年の385,615人に対して、平成22年には253,174人と、およそ130,000人(△34.4%)減少しました。

*ジュニア選手：小学生及び中学生選手

*少年選手：高校生選手

③スポーツ少年団における加入率について



〔日本体育協会資料、文部科学省資料、三重の統計 みえ DataBox〕

本県におけるスポーツ少年団の加入率は、平成 15 年から平成 23 年まで大幅な変化はなく、ほぼ同じ水準で推移しています。なお、全国と比較すると、男女とも本県の加入率は高くなっています。

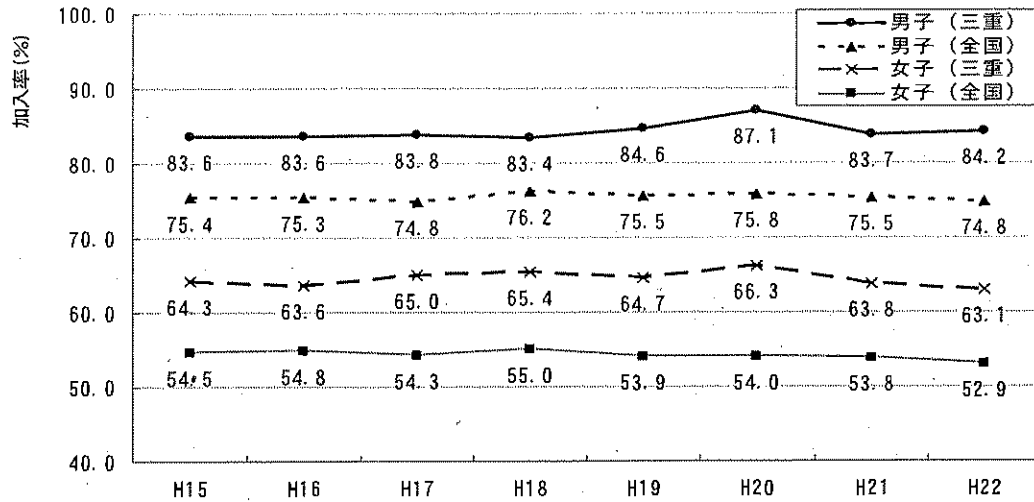
④ジュニア選手の競技人口の少ない種目について

ジュニア選手の競技人口が 10 名以下の競技	ボート (0)、ボクシング (10)、ヨット (9)、 ウエイトリフティング (7)、自転車 (5)、山岳 (1)、 カヌー (0)、アーチェリー (4)、銃剣道 (3)、 アイスホッケー (0)、ホッケー (0)
------------------------	--

() 内はジュニア選手の競技人口
〔みえの競技力 2012〕

競技の中には、競技場所の制約や認知度の不足等から、本県ジュニア選手の競技人口が少ない競技も複数みられます。

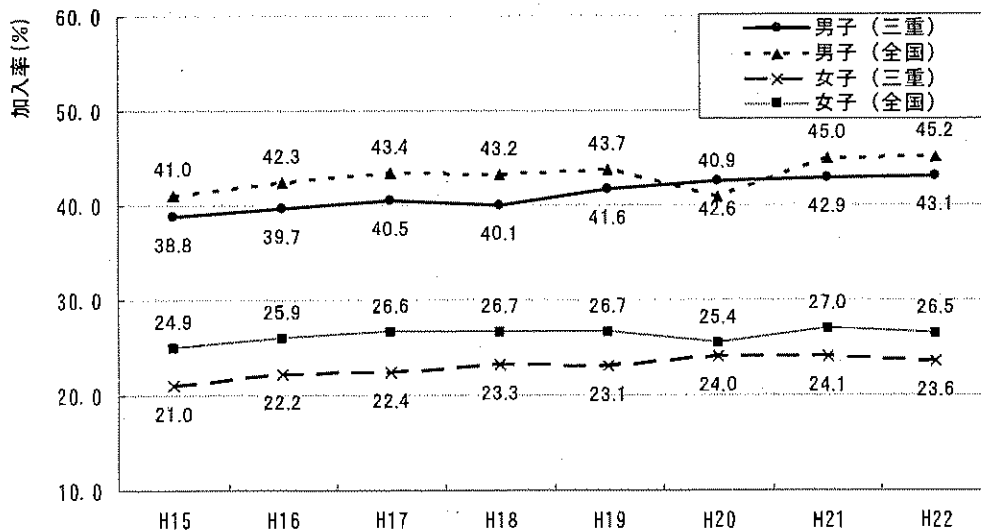
⑤中学校における運動部活動の加入率について



[日本中学校体育連盟資料、文部科学省資料]

本県における中学校の運動部活動の加入率は、平成15年度から平成22年度まで大幅な変化はなく、ほぼ同じ水準で推移しています。なお、全国と比較すると、男女とも本県の加入率は全国平均を10ポイント程度上回っています。

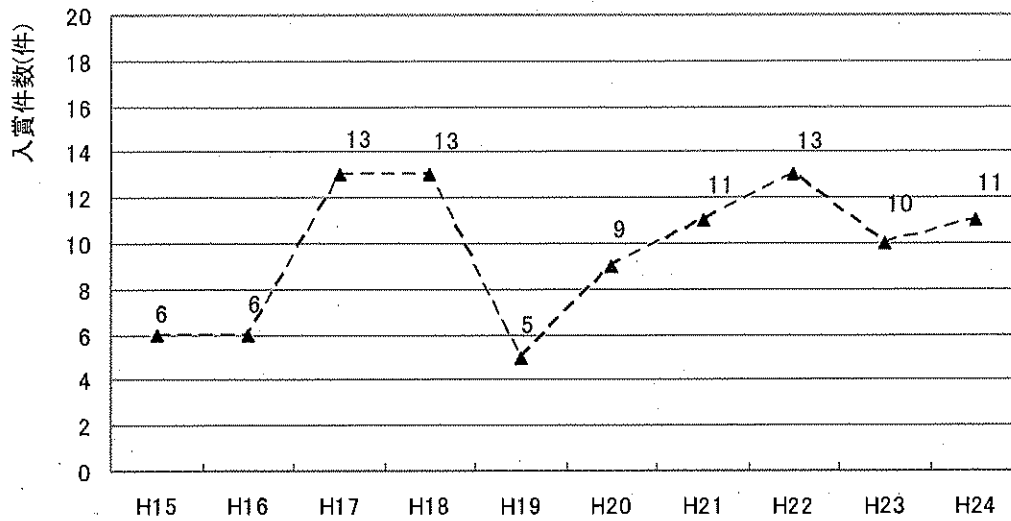
⑥高等学校における運動部活動の加入率について



[全国高等学校体育連盟資料、文部科学省資料]

本県における高等学校の運動部活動の加入率は、平成15年度から平成22年度までの間に、男女とも微増しています。なお、全国と比較すると、本県の加入率は低く、中学校では全国平均を上回っていたものが、高等学校では全国平均を下回っています。

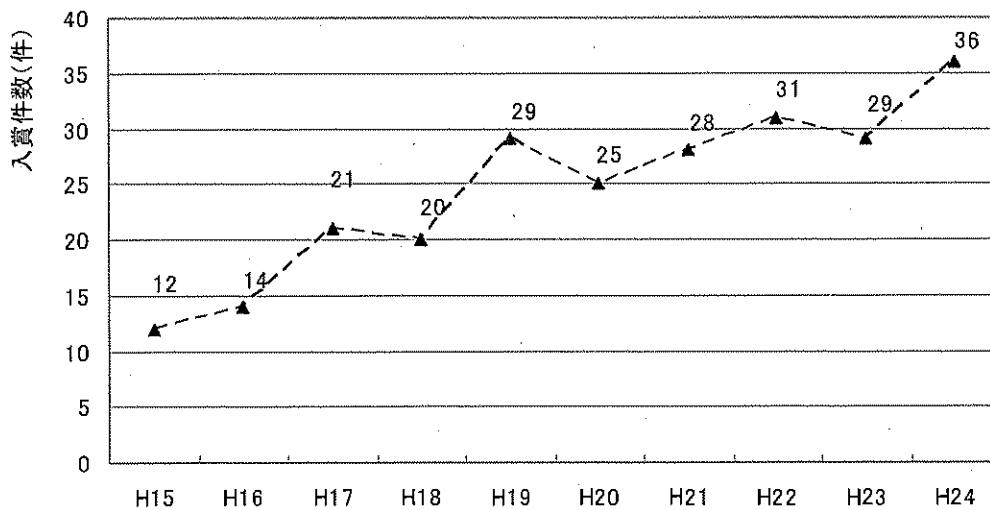
⑦全国中学校体育大会における入賞者数について



〔三重県教育委員会資料〕

平成 15 年以降の全国中学校体育大会における 8 位以内の入賞件数は、最高が平成 17・18・22 年の 13 件で、最低が平成 19 年の 5 件であり、概ね 10 件前後で推移しています。

⑧全国高等学校総合体育大会における入賞者数について

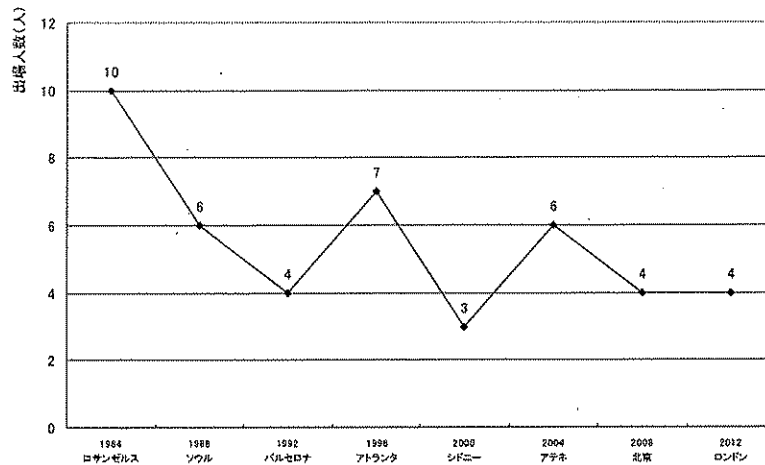


〔三重県教育委員会資料〕

平成 15 年以降の全国高等学校総合体育大会における 8 位以内の入賞件数は、最高が平成 24 年の 36 件で、最低が平成 15 年の 12 件であり、多少の増減はあるものの、平成 15 年以降増加傾向にあります。

(2) 成年選手を取り巻く環境

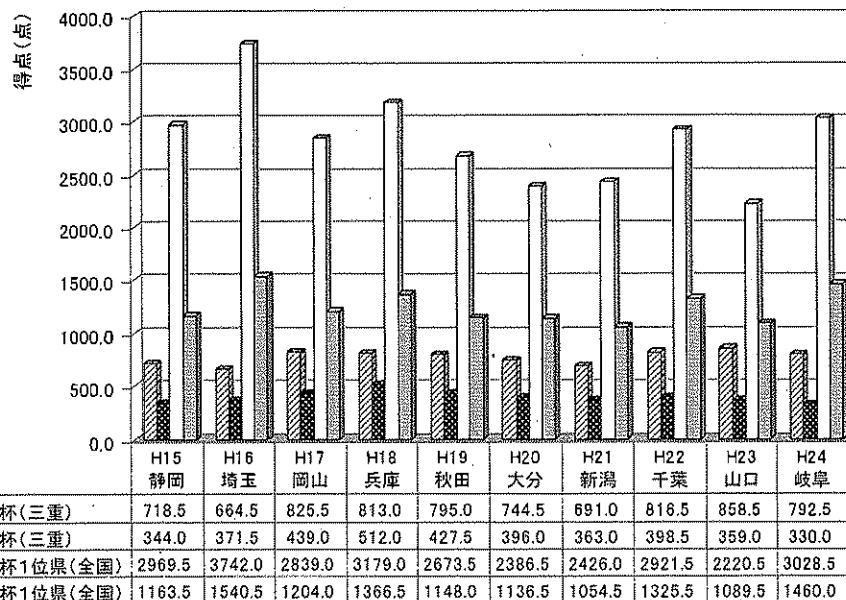
① オリンピック競技大会における本県選手の出場人数について



〔三重県体育協会資料〕

不参加となったモスクワ大会以降のオリンピック競技大会における出場人数は、ロサンゼルス大会における10人をピークとし、それ以降は多少の増減はあるものの減少傾向にあります。

② 国民体育大会における本県及び1位県の天皇杯・皇后杯の得点について

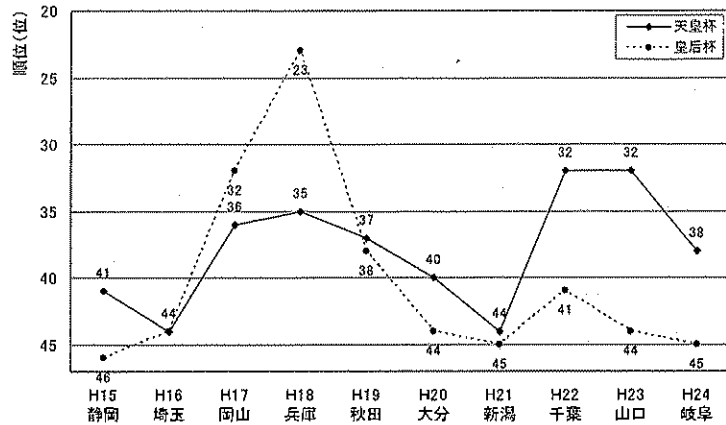


得点には参加点を含む

〔三重県体育協会資料〕

国民体育大会における得点制度の変更があった平成15年の静岡国体以降、本県における天皇杯得点は650～850点、皇后杯得点は350～500点で概ね推移しています。なお、天皇杯1位県は2,000点以上、皇后杯1位県は1,000点以上で推移しています。

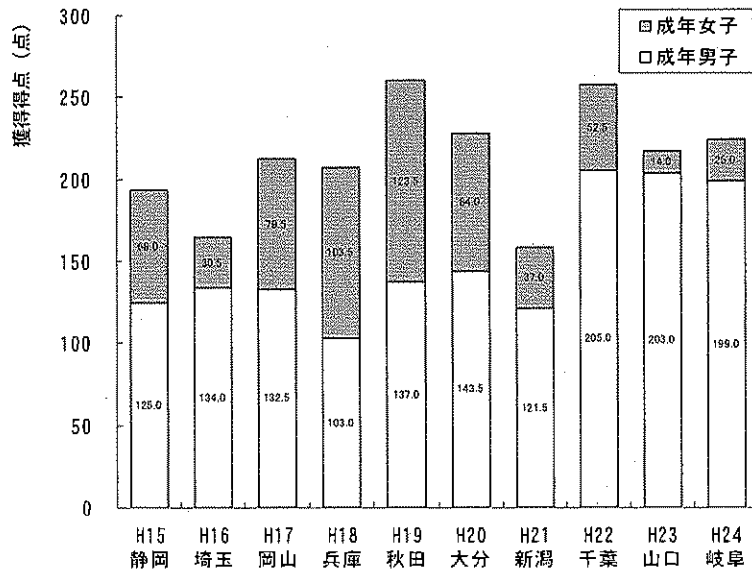
③国民体育大会における本県の天皇杯及び皇后杯の順位について



[三重県体育協会資料]

平成 15 年以降の天皇杯順位は直近の 2 年間の順位が 32 位と最も高く、平成 22 年及び平成 23 年の 2 年間の順位が 32 位と最も高く、皇后杯順位は平成 18 年をピークとして、平成 20 年以降は 40 位台が続いています。

④国民体育大会における成年種別の獲得得点について



参加点を除く
[三重県体育協会資料]

成年男子は常に 100 点以上の得点を獲得しており、直近の 23 年間の獲得得点は 200 点以上概ね 200 点となっています。それに対し、成年女子は平成 19 年の 123.5 点をピークとし、には 123.5 点を獲得しましたが、それ以降は減少傾向にあります。低迷しています。

⑤国民体育大会における成年種別の競技別獲得得点について

【成年男子】

	競技名	H15 静岡	H16 埼玉	H17 岡山	H18 兵庫	H19 秋田	H20 大分	H21 新潟	H22 千葉	H23 山口	H24 岐阜
1	水泳(競泳)			1.0				3.0		2.0	4.0
2	ヨット	1.0	6.0	8.0		18.0	1.0	21.0	9.0		
3	カヌー		5.0				2.0				
4	ボウリング	8.0	8.0								
5	陸上競技	20.0	25.0	12.0	22.0	12.0	13.0	11.0	3.0	7.0	9.0
6	テニス	12.0	18.0		21.0	24.0	21.0		21.0	24.0	24.0
7	ホッケー					2.5					8.0
8	体操(競技)							18.0	15.0	15.0	12.0
9	レスリング	8.0	11.0	2.5	5.0	28.0	16.0	27.5	15.5	10.0	8.0
10	グレコローマ	18.0	23.0	9.0	15.0	13.0	14.0	7.0	9.0	14.0	11.0
11	ハンドボール	40.0	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5			12.5	
12	自転車	12.0	7.0	1.0	25.0	22.0		6.0	17.0	32.0	27.0
13	ソフトテニス					5.0			30.0	10.0	25.0
14	軟式野球									40.0	
15	相撲									7.5	
16	馬術	5.0	5.0	10.0					10.0	1.0	3.0
17	フェンシング									15.0	
18	バドミントン								7.5		
19	弓道									9.0	
20	ライフル射撃	1.0	1.0					7.0		4.0	
21	ラグビーフットボール			64.0			64.0		64.0		64.0
22	山岳										3.0
23	空手道				2.5						
24	銃剣道							21.0			
25	スキー								4.0		1.0
		125.0	134.0	132.5	103.0	137.0	143.5	121.5	205.0	203.0	199.0

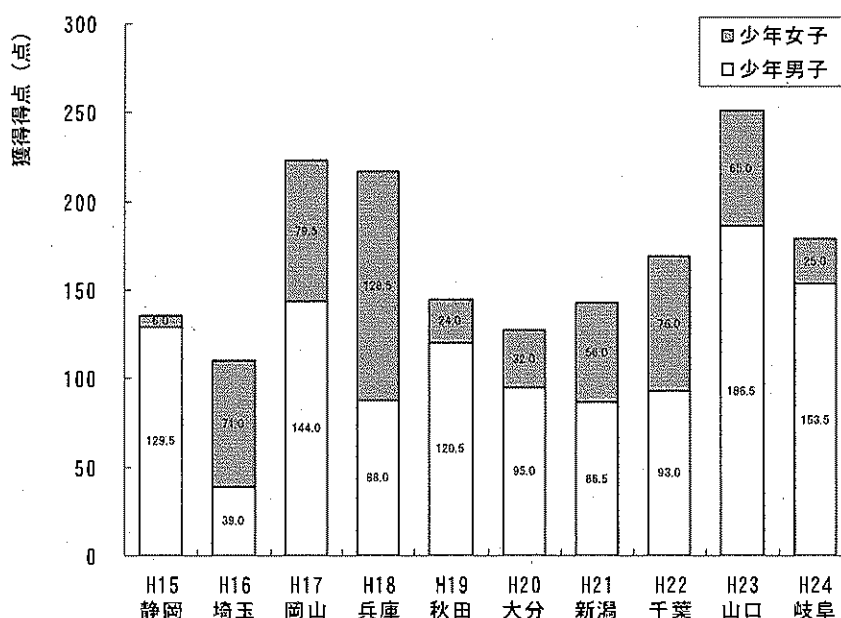
【成年女子】

	競技名	H15 静岡	H16 埼玉	H17 岡山	H18 兵庫	H19 秋田	H20 大分	H21 新潟	H22 千葉	H23 山口	H24 岐阜
1	水泳(競泳)						3.0	8.0	4.0		
2	ヨット				4.0	3.0					
3	カヌー			4.0		3.0	3.0				
4	ボウリング		5.0								
5	陸上競技	12.0	10.0	8.0	3.0		2.5	12.0	6.0	9.0	5.0
6	サッカー	56.0		20.0	64.0	56.0	40.0		40.0		
7	バスケットボール			27.5	27.5						
8	ハンドボール		12.5	12.5		12.5					
9	馬術				5.0	7.0	11.0	5.0		5.0	5.0
10	フェンシング										15.0
11	弓道					42.0		6.0			
12	剣道			7.5			7.5				
13	空手道						8.0	6.0	2.5		
14	なぎなた		3.0				9.0				
		68.0	30.5	79.5	103.5	123.5	84.0	37.0	52.5	14.0	25.0

(三重県体育協会資料)

平成 15 年の静岡国体以降、成年男子で得点を獲得した競技は 2425 競技（過去 5 年で 2223 競技）、成年女子は 1314 競技（過去 5 年で 1110 競技）です。また、毎年得点を獲得している競技は、成年男子の陸上競技、レスリング、ウエイトリフティングです。

⑥国民体育大会における少年種別の獲得得点について



参加点を除く
〔三重県体育協会資料〕

少年男子は、平成 16 年 (39.0 点) を除いては概ね 100 点前後の獲得得点で推移していましたが、平成 23 年には前年のほぼ倍にあたる 186.5 点となっています。直近の 2 年間は平成 23 年の 186.5 点、平成 24 年の 153.5 点となっています。それに対し、少年女子は平成 18 年の 128.5 点をピークとし、それ以降は獲得得点が半減している状況にあります。獲得しましたが、成年女子同様に翌年は大きく点数を下げ、一時は持ち直したものの直近の成績は低迷しています。

⑦国民体育大会における少年種別の競技別獲得得点について

【少年男子】

	競技名	H15 静岡	H16 埼玉	H17 岡山	H18 兵庫	H19 秋田	H20 大分	H21 新潟	H22 千葉	H23 山口	H24 岐阜
1	スケート						6.0				
2	水泳(競泳)	5.0		3.0	4.0		2.0	1.0	6.0	7.0	12.0
3	水泳(水球)	17.5				20.0	15.0			20.0	
4	ボート			8.0	7.0						
5	カヌー		2.0	3.0							
6	陸上競技	25.0	7.0	19.0	12.0	24.0	23.0	17.5	21.0	15.0	31.0
7	テニス						24.0		24.0	21.0	18.0
8	ボクシング										10.5
9	ボウリング			3.0							
10	バスケットボール			27.5							
11	レスリング	5.0	8.0	10.5	13.0	10.5	8.0	23.0	14.0	32.5	15.0
12	ウエイトリフティング	9.0	11.0	5.0	15.0	31.0	10.0	7.0	2.0	15.0	25.0
13	ハンドボール			12.5							
14	自転車	14.0	7.0					5.0	13.0	26.0	6.0
15	ソフトテニス	40.0		40.0	25.0	35.0		30.0			
16	馬術	5.0	4.0				7.0		1.0	7.0	
17	フェンシング									15.0	
18	柔道			12.5							
19	弓道								12.0		
20	ライフル										9.0
21	ラグビーフットボール				12.0					28.0	
22	銃剣道	9.0						3.0			6.0
23	ゴルフ										21.0
		129.5	39.0	144.0	88.0	120.5	95.0	86.5	93.0	186.5	153.5

【少年女子】

	競技名	H15 静岡	H16 埼玉	H17 岡山	H18 兵庫	H19 秋田	H20 大分	H21 新潟	H22 千葉	H23 山口	H24 岐阜
1	水泳			9.0	6.0		7.0	4.0	4.0		
2	ボート				5.0						
3	ヨット	1.0							2.0		
4	ボウリング				7.0		12.0	28.0			
5	陸上競技	5.0	16.0	3.5	12.0	6.0	13.0	24.0	16.0	12.0	
6	テニス								3.0		15.0
7	バレーボール		17.5		17.5						
8	バスケットボール				12.5						
9	ハンドボール		25.0	12.5	12.5					12.5	
10	ソフトテニス		5.0	35.0					30.0	35.0	10.0
11	卓球		7.5	7.5							
12	フェンシング								21.0		
13	ソフトボール				56.0						
14	弓道			12.0		12.0					
15	山岳									3.0	
16	空手道									2.5	
17	なぎなた					6.0					
		6.0	71.0	79.5	128.5	24.0	32.0	56.0	76.0	65.0	25.0

(三重県体育協会資料)

平成 15 年の静岡国体以降、少年男子で得点を獲得した競技は 2023 競技（過去 5 年では 1417 競技）、少年女子は 17 競技（過去 5 年間で 1210 競技）です。また、毎年得点を獲得している競技は、少年男子の陸上競技、レスリング、ウエイトリフティングです。

⑧大学スポーツの状況について

本県には、四年制大学として、三重大学、三重県立看護大学、皇學館大学、鈴鹿医療科学技術大学、鈴鹿国際大学、三重中京大学、四日市大学、四日市看護医療大学の計 8 校がありますが、全国大会において常に上位入賞するクラブを有する大学は、非常に少ない状況です。

⑨企業スポーツの状況について

企業がスポーツを支援する手法には様々なかたちがありますが、過去 3 年間に国民体育大会で選手を派遣した実績を有する県内企業については、次のとおりです。

- ・ 本田技研工業株式会社 ラグビー、ハンドボール、軟式野球等
- ・ 相好株式会社 体操競技
- ・ NTN株式会社 陸上競技
- ・ 株式会社デンソー 陸上競技
- ・ 株式会社日本陸送 陸上競技
- ・ 八千代工業株式会社 陸上競技（現在は埼玉県に移転）
- ・ 株式会社エクセディ 卓球
- ・ 株式会社安永 弓道

〔国体準備課調査〕

これらの企業は、高等学校や大学を卒業した優秀な選手を受け入れ、選手をサポートしており、本県における成年選手の強化の中心的存在となっています。一方、企業数が限られ、また、所有するクラブの競技種目に重複もみられます。

⑩ふるさと選手の状況について

	H20 (大分)	H21 (新潟)	H22 (千葉)	H23 (山口)	H24 (岐阜)	平均
本県選手数	46	52	44	41	61	48.8
全国平均	59.5	61.7	58.5	62.4	65.9	61.6

[平成24年度長崎県調査]

過去5年間における国民体育大会出場選手で「ふるさと選手制度」を活用した本県選手は、1大会あたり45-848.8人であり、全国平均の60-561.6人を下回っています。なお、本県のふるさと選手は45-848.8人のうち、39-541.8人を大学生が占めています。

(3) 指導者の現状について

①公認スポーツ指導者（競技別指導者資格）*の登録数について

- ・指導員（学校区や住居地域の競技者における指導にあたる者）
1,650人 全国20位
- ・上級指導員（市町選抜レベルの競技者における指導にあたる者）
225人 全国27位
- ・コーチ（県レベルの競技者における指導に当たる者）
193人 全国26位
- ・上級コーチ（全国レベルの競技者における指導に当たる者）
83人 全国15位
- ・教師（商業スポーツ施設等において、質の高い実技指導を行う者）
59人 全国18位
- ・上級教師（商業スポーツ施設等において、質の高い実技指導を行う者で、各種事業に関する組織内指導者の中心的役割を担う者）
16人 全国23位

平成23年10月現在

[日本体育協会資料]

本県における上級コーチ、教師の数は全国的には上位にあるものの、指導員、上級指導員、コーチ、上級教師の数は全国的には中位にあります。

*公認スポーツ指導者（競技別指導者資格）：

公益財団法人日本体育協会公認のスポーツ指導者（競技別指導者資格）のこと
指導員、上級指導員、上級コーチ、教師、上級教師

②公認スポーツ指導者（競技別指導者資格）登録数の少ない競技団体について

公認スポーツ指導者（競技別指導者資格）が10名以下の競技	ボート(5)、ホッケー(0)、ボクシング(4)、スケート(0)、レスリング(2)、セーリング(9)、自転車(7)、軟式野球(2)、相撲(0)、馬術(8)、柔道(6)、フェンシング(1)、ライフル射撃(1)、カヌー(0)、アーチェリー(9)、アイスホッケー(0)、銃剣道(7)、クレール射撃(0)、ゴルフ(3)
------------------------------	--

()内は指導者数

〔三重県体育協会資料〕

競技の中には、運動の特殊性や認知度の等から、指導者不足に悩む競技も複数みられます。

③指導者に係る調査結果について

三重県体育協会の強化・普及委員会による競技団体聴取会及び国体準備課による基本方針策定のためのヒアリング（平成24年7月3日～8月24日実施）結果から、①強化指定した学校運動部に対する指導者の一層の充実、②教員の適正配置、③人事異動制度の弾力運用、④教員採用試験における指導者確保、⑤公認スポーツ指導者資格の取得に対する支援のための制度導入等についての意見が得られました。

(4) 競技力向上のための環境について

①施設・設備等について

本県の公共スポーツ施設等の整備状況は、他県と比較すると必ずしも十分とは言えない状況にあり、練習場所としても、こうした事情に影響される面は否めません。

用具や備品についても競技に必須のものが、高額、特殊等の理由で購入することができず、十分な練習ができない競技もあります。

②メディカル・コンディショニング有資格者の現状について

- ・アスレチックトレーナー（スポーツ障害の応急処置や障害予防にあたる者）

15人 全国19位

- ・スポーツドクター（スポーツ障害の治療や障害予防にあたる医師）

78人 全国26位

平成23年10月現在

〔日本体育協会資料〕

本県のアスレチックトレーナー及びスポーツドクターの数は全国的には中位にあります。スポーツ医・科学は、競技力を科学的、合理的に伸ばしていくためにも有意義なものであるため、今後はメディカル・コンディショニングに関する資格の取得を積極的に進めていくことが求められています。

(5) 競技スポーツを支えるしくみ事例について

本県においては、競技スポーツを支えるしくみとして、県民がサポートし、選手の活動やチームを盛り上げている事例もあります。

また、県や公益財団法人三重県体育協会では、選手等を県全体で応援する機会とするため、顕彰制度の設置やホームページによる広報等、県民に対する競技スポーツのPRを行っていますが、県民をあげて競技スポーツを支えるしくみとしては必ずしも充実しているとはいえない現状にあります。

①県内のクラブチームを支えるしくみの事例について

本県には企業チームやクラブチームがありますが、いずれも財政事情は厳しいものがあります。クラブチームの中には、このような協賛制度のほか、ベンダーの協力により自動販売機収入の一部をクラブの収益とするなど、運営費用の確保に向けた工夫を行っているところがあります。

[他者からの支援を仰いでいる取組事例の一部]

1) 伊賀フットボールクラブくノ一 (NPO法人)

スポンサー	パートナー	サプライヤー	サポーターメンバー
5	10	12	110

(2012年6月末現在)

2) 伊賀フューチャーズクラブ (NPO法人)

正会員	一般会員	賛助会員・特別会員
53	598	20

(2012年3月末現在)

3) FC鈴鹿ランポーレ (NPO法人)

スポンサー	パートナー	アドバイザー	会員
11	7	1	63

(平成24年8月24日現在)

(協賛制度のしくみ)

伊賀フットボールクラブくノ一の場合を例にとりますと、スポンサー、パートナー、サプライヤーに関する情報は公開されていませんが、サポーターメンバーに関する取り決めは、次のとおりです。

1) ファンクラブ賛助会員 (個人)

ブロンズ会員：3,000円、シルバー会員：5,000円、ゴールドⅠ会員：10,000円、ゴールドⅡ会員：20,000円、プラチナ会員：30,000円)

2) ファンクラブ賛助会員 (団体)

ブロンズ会員：10,000円、シルバー会員：20,000円、ゴールド会員：30,000円、プラチナ会員：50,000円)

②本県のスポーツに関する顕彰事業について

本県においては、表彰規定に基づき、下記のとおり実績のあった選手を表彰しています。

		表彰規定	授賞人数
県民栄誉賞	県民特別栄誉賞	県民栄誉賞受賞後さらに顕著な業績があったもの	1
	県民栄誉賞	世界規模で開催されるスポーツ競技大会で特に優秀な成績を収め、顕著な功績があったもの	1
スポーツ栄誉賞	栄誉大賞	オリンピック・パラリンピックにおいて、3位以上の成績を収めたもの	1
	栄誉賞	オリンピック・パラリンピックにおいて、4～8位の成績を収めたもの	3
スポーツ栄誉新人賞	栄誉大賞新人賞	ユースオリンピックにおいて、3位以上の成績を収めたもの	0
	栄誉賞新人賞	ユースオリンピックにおいて、4～8位の成績を収めたもの	0
スポーツ特別功労賞	輝くみえのアスリート大賞	功労大賞受賞後さらに功績を重ねたもの	1
	特別功労大賞	功労賞受賞後さらに功績を重ねたもの	1
	特別功労賞	権威あるスポーツ競技会での優秀な成績、またはスポーツ賞・福祉関係功労表彰受賞後の優秀な成績を重ねたもの	2
スポーツ賞	優秀賞	全国大会での優勝、権威ある国際大会での入賞等を収めたもの（一般）	55
	新人賞	全国大会での優勝、権威ある国際大会での入賞等を収めたもの（中学生・高校生）	38
スポーツ奨励賞	スポーツ奨励賞	全国・国際大会で優秀な成績を収め、県民に明るい元気な話題を提供したもの	4

過去5年間(平成19年度～平成23年度)のデータ

なお、三重県教育委員会においては、優秀選手・指導者表彰を行っています。

また、公益財団法人三重県体育協会においては、体育功労者賞、体育功労者特別賞、特別優秀選手賞、優秀選手賞、特別優秀監督賞、優秀監督賞、特別優秀チーム賞、優秀チーム賞、スポーツ優良団体賞、国民体育大会賞等の顕彰事業を行っています。

(6) 本県競技スポーツの課題について

①ジュニア選手及び少年選手の強化

県内の小中学生の体力・運動能力は、全国的には低位にあります。

また、小学生の段階からジュニア選手を発掘し、育成・強化するとともに、中学校、高等学校へ進学しても継続して競技を続けられるよう、運動部活動をより充実する必要があります。

特に、男子に比べ女子の競技力が低くなっており、重点的な強化を行っていく必要があります。

②成年選手の育成・強化

現在も県内の企業チームやクラブチーム等を中心に、成年選手が活躍していますが、その成果は特定の競技に限られています。このことから、多くの競技において成年選手が活躍できるよう、少年選手の進路の受け入れ先となる企業や大学等の協力・支援が必要です。また、引き続き、成年選手の強化を一層、拡充していく必要があります。

③指導者の養成・確保

本県の公認スポーツ指導者数は全国的には中位にありますが、競技によっては、必ずしも十分とはいえず、資格の取得を促進していく必要があります。あわせて、指導者の確保と養成にも取り組む必要があります。

また、中学校、高等学校運動部活動においては、専門性に配慮した指導者の配置等が求められます。

④競技力向上のための環境整備

選手強化の拠点となる、各種スポーツ施設・設備については、他県に比べ必ずしも十分ではないことから、今後は、施設・設備や用具・器具等の整備を計画的に進めていく必要があります。

また、医・科学スタッフの派遣等、競技団体や学校等が実施する強化活動の環境を整える必要があります。

⑤競技スポーツを支えるしくみづくり

本県で開催される国民体育大会において、本県選手が活躍するためには、県や県体育協会、競技団体等関係者の取組だけでなく、県民や企業等の支援も必要となります。

現在、こうした競技スポーツを支援するための広報活動は十分でなく、スポーツを「みる」「支える」といった活動をより活発化させ、県民の関心と理解を深め、財政的な支援も含め、本県競技スポーツの向上に向けた支援を得ていく必要があります。

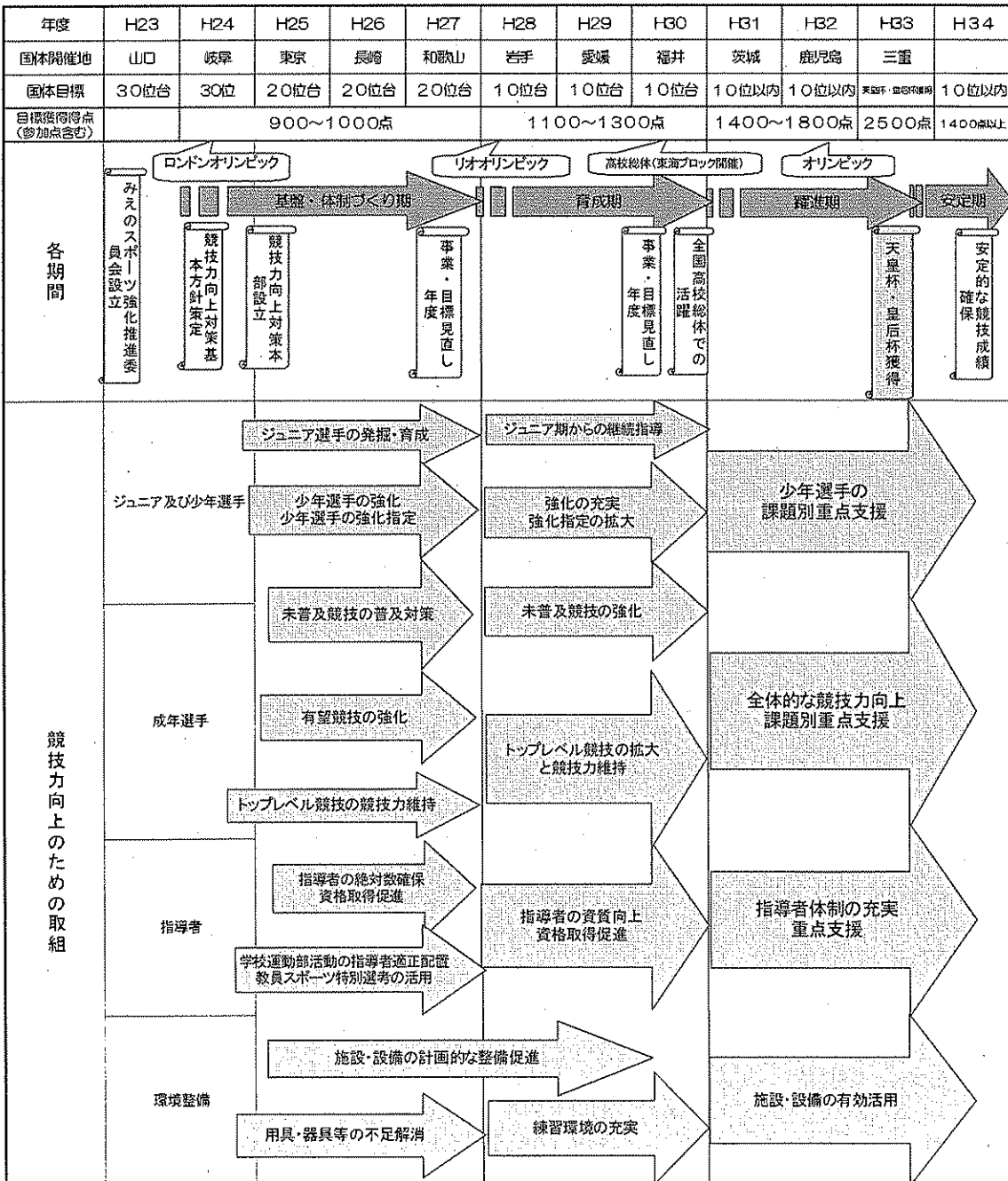
3 三重県競技力向上対策基本方針における目標及び計画

(1) めざすべき目標

本県スポーツの課題等を踏まえ、中長期的な視点に立った競技力向上の取組を進める中で、平成33年の本県で開催する国民体育大会での天皇杯・皇后杯獲得をめざすとともに、大会終了後も安定した競技力を確保します。

また、これらの取組を契機として、国内外の大会で活躍するトップアスリートを養成します。

(2) 各期間の目標と取組



4 新しい組織の整備と推進体制

本県競技スポーツの課題を踏まえ、目標を達成するため、これまでの取組をより充実させることや、新たな取組に着手するためには、組織等体制の整備を図る必要があります。

これまでも、「みえのスポーツ強化推進委員会」で包括的な競技力向上対策について検討・実施してきました。今後は、競技力向上とその後の安定した競技力確保のため、県体育協会をはじめ各関係団体等、幅広く各主体の参画を得て、総合的、計画的に競技力を向上させていく体制として、「三重県競技力向上対策本部（仮称）」を設置します。

①「本部会議」（仮称）の設置

知事を本部長とし、県体育協会をはじめ各競技団体、学校体育団体、企業等と連携のもと、「本部会議」を設置し、競技力向上対策の包括的な決定・推進を行います。

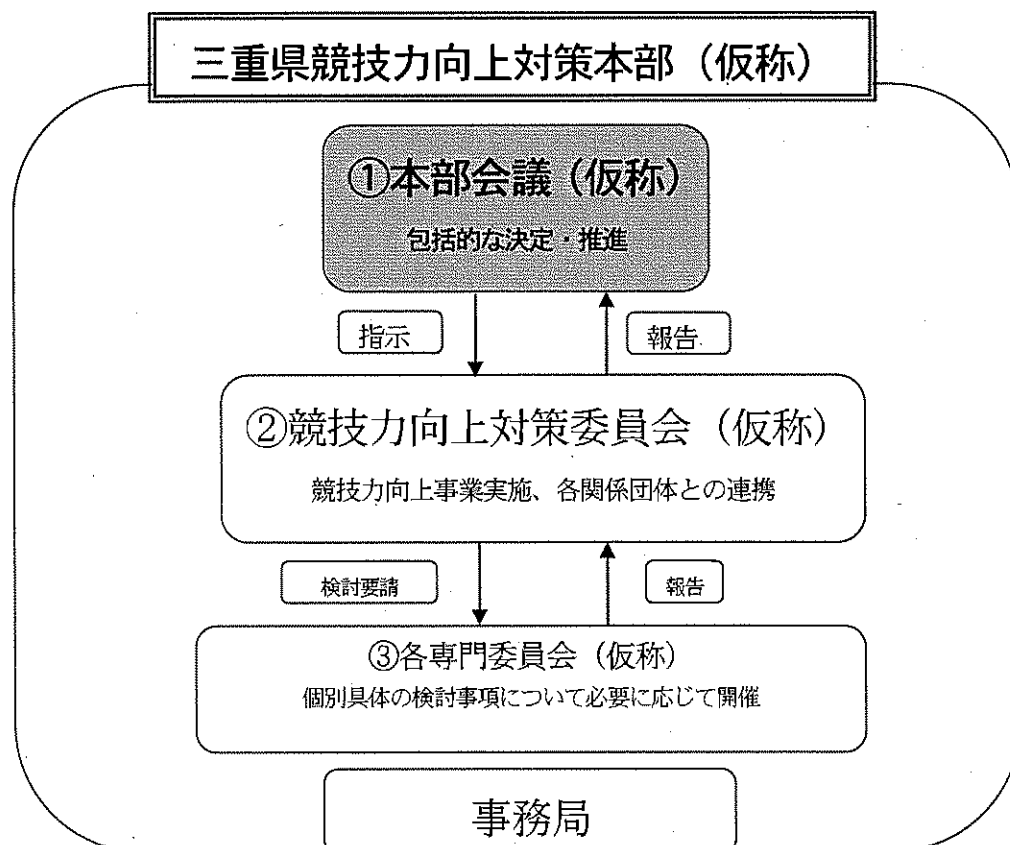
②「競技力向上対策委員会」（仮称）の設置

競技力向上の取組を検討する競技力向上対策委員会（仮称）を本部会議の下部機関として設置し、本部の取組を実務的に支えます。

③「専門委員会」（仮称）の設置

専門的な個別具体の取組について検討するため、必要に応じて設置し、競技力向上対策委員会（仮称）への意見の報告等を行います。

【イメージ図案】



5 競技力向上のための取組

本県競技スポーツにおける課題を解決し、目標を達成するため、新たな推進体制である「三重県競技力向上対策本部（仮称）」を中心に5つの取組を柱として、競技力向上の取組を推進します。

取組の柱

①ジュニア及び少年選手の発掘・育成・強化

～みえ生まれ、みえ育ちの選手が強くなる～

②成年選手の育成・強化

～地域に根ざした強いチーム・選手をつくる～

③指導者の養成・確保

～強いチーム・選手は優れた指導者から～

④環境整備

～強い選手を育てるフィールドづくり～

⑤しくみづくり

～「チームみえ」をサポートする人の輪づくり～

①ジュニア及び少年選手の発掘・育成・強化

～みえ生まれ、みえ育ちの選手が強くなる～

平成33年国民体育大会に向けた選手育成や平成30年に東海ブロックで開催される全国高等学校総合体育大会で本県選手が活躍するために、対象となる現在の小学生から中学生の体力向上を図りながら、ジュニア選手の発掘・育成を進めます。また、学校運動部に対する重点的な支援を行い、育成・強化を行います。

<主な取組>

①小中学生の体力向上の取組

本県小中学生の体力の実態を把握するとともに、子どもたちの運動する機会の拡充をはかることにより、小中学生の体力向上の取組を進めます。

②ジュニア選手層拡大のための発掘

ジュニア選手層の拡大に向けて必要な競技に対し、競技スポーツの情報発信に取り組むとともに小中学生を対象として、発掘のための体験・育成プログラムの実施や体力測定等のイベントを行い、ジュニア選手の発掘を進めます。また、保護者に対しては、子どもたちを支える知恵や意識の醸成を図ります。さらに、学校体育団体や各競技団体と連携を深め、ジュニア選手が中学校、高等学校においても継続して競技が続けられるような取組を進めます。

③チームみえジュニアの育成

みえ生まれ、みえ育ちの選手を育成するため、将来有望な小中学生のジュニア選手を「チームみえジュニア」として育成・強化します。

④学校運動部や選手の強化指定等

本県競技力の中心となる高等学校運動部、中学校運動部や選手に対し、強化指定を行い、その強化活動を支援するとともに、強化指定運動部としての周知を進める等、その求心力を一層高めます。

⑤女子選手の育成

特にジュニア及び少年選手を中心に発掘や育成における「女子選手」に特化した取組を進めます。

②成年選手の育成・強化

～地域に根ざした強いチーム・選手をつくる～

地域に根ざしたクラブチームや企業チームが強化活動を行い、より活発となることが、国民体育大会での実績につながります。また、県内で育成された少年選手の受け入れ先にもなります。

こうしたことから、クラブチームや企業チームの強化活動を支援し、育成・強化を図ります。また、本県の代表選手を「チームみえ」として強化を行います。

<主な取組>

①本県代表選手「チームみえ」の育成・強化

成年選手のうち、本県の有力選手を「チームみえ」として強化活動の支援を行います。

⑥未普及競技の育成支援

全国大会等で実績の少ない競技や、県内での普及が十分でない競技に対する普及・強化対策を行うことで県全体のレベルアップにつなげます。

⑦県内へのトップアスリート受け入れ支援

トップアスリートが、県内で就職等生活の基盤を持ち、かつ練習環境が整うよう、県体育協会と連携しながら、県内企業や大学と情報交換を行い、アスリートの受け入れや選手の確保に向けた取組を行います。

⑧県内の大学やクラブチーム、企業チーム等の支援

大学やクラブチーム、企業チーム等を強化指定し、活動の支援を行うことで、全国トップレベルのチームや選手の育成を進めます。

⑨ふるさと選手の積極的な活用

本県出身のアスリートが「ふるさと選手」として、本県で活躍できるよう、在籍大学等への働きかけを行います。

③指導者の養成・確保

～強いチーム・選手は優れた指導者から～

中学校や高等学校の運動部指導者が各競技の中心となる指導者となっていることから、これらの指導者をはじめとして、企業チーム、クラブチーム等の指導者も含めた全体の資質向上を図るとともに、教員採用試験でのスポーツ特別選考の活用により、トップレベルの競技者による運動部活動の活性化を図っていきます。

さらに、県全体での公認スポーツ指導者を確保できるよう、支援を進めます。

<主な取組>

①指導者養成のための研修会等の実施

指導者の意識向上とスキルアップを図るため、強化指定運動部、企業チーム・クラブチーム指導者等に対し、競技の枠を越えた指導者の連携による、研修会を行います。

②学校運動部指導者の配置等

強化指定運動部を中心として中学校、高等学校の運動部強化のため、すぐれた指導力を有する教職員について、その専門性に配慮した異動、配置を進めていくとともに、スポーツ特別選考での採用教員についても同様の配置に努めます。

③専門的な指導者の派遣

専門的指導者のいない学校に外部指導者を派遣し、指導の機会を確保します。

④公認スポーツ指導者資格等の取得促進

各競技における指導者資格取得について、負担軽減を図る等、取得を促進し、有資格指導者を確保します。

④環境整備

～より強くなるためのフィールドづくり～

本県においては、各種スポーツ施設等が他県に比べ充実していないことから、今後は、競技力向上のため、施設整備や用具・器具等の整備を計画的に進めていきます。

また、医・科学スタッフの派遣等、競技団体や学校等が実施する強化活動の環境を整えます。

<主な取組>

①施設整備の取組

「三重県スポーツ施設整備計画」に基づき、計画的な施設整備を進めます。

また、県内の県有施設、市町有施設、民間施設等について、選手の利用しやすい環境づくりに努めます。

②用具・器具等の整備

トップレベルの練習が実施できるよう、用具・器具等について、緊急度や必要性を勘案しながら、順次整備を進めます。

③スポーツ医・科学スタッフ等の派遣の支援

各種大会や強化練習時にスポーツ医・科学スタッフ等を派遣し、選手のサポートを行います。

⑤しくみづくり

～「チームみえ」をサポートする人の輪づくり～

みえを代表する「チームみえ」の選手の活躍や、それを目指すジュニア選手の活動等の広報をすすめることで、理解と支援の輪を広げます。また、国民体育大会の開催を契機に育成された選手や新たに発掘された選手が、国民体育大会開催後も引き続き支援を受けることができ、その活躍が県民に夢と感動を与えられるような風土づくりを進めます。また、選手がこれまで養ってきた人格や資質等は、企業にとってかけがえのない財産となりうることについて、一層の理解を促していきます。

<主な取組>

①三重県代表選手「チームみえ」の広報

国民体育大会での活躍をはじめ、さまざまな大会で活躍するトップアスリートについてメディアを利用して広報し、また、一定の成績を収めた選手を県が表彰し、県民に周知することで、県民の関心を高めるとともに、アスリートを県民全体で支えていく気運を醸成します。

②強化活動支援の広報

選手の強化活動を支援するために、活動援助の募集等、選手を支えるためのしくみが活かされるような広報を行います。

③「スポーツ」と「支える」企業・団体、人をつなぐ活動の展開

アスリートを積極的に採用している企業や、多くの人をサポートして運営されているクラブチーム等の魅力をより積極的に発信し、スポーツの持つ可能性を活かそうとする風土づくりに取り組みます。